

最小の経費で最大の効果を

平成22年第1回市議会定例会が3月2日から17日まで、16日間の会期で開かれ、議案33件などを審議しました。いずれも原案どおり可決・採択されました。

議会初日に行われた市長の施政方針と行政報告のあらまは次のとおりです。

3月定例会

市長施政方針要約

『骨格予算』を編成

本市において昨今の経済情

勢の悪化から、市税収入への影響は避けられず、個人市民税、法人市民税あわせて、前年

度の当初予算と比較して、額で3億4764万1千円、率にしますと12・8割減少する見込みです。

一方、固定資産税では、伊奈・谷和原丘陵部地区などへの人口増加に伴い、2億572万4千円の増加を見込んでいますが、市税収入全体では、額として1億5166万1千円、率では2・6割の減収となる見込みです。

このような財政状況の中、平成22年度については、私の市長任期が本年5月13日で満了することから、政策的経費を極力抑え、義務的経費を中心とした、いわゆる「骨格予算」を編成しました。

言い換えますと、①法令などに基づく義務的経費②既存施設の維持管理費③既に債務負担行為や継続費を設定している事業など―を最低限計上した予算としています。

つくばみらい市政の基本となる「総合計画」にのっとり、施策の一端を申し上げます。

都市基盤の整備

新市としての一体性の確保と広域的な道路ネットワークの充実に努めるため、豊体横町下宿線整備事業として、平成21年度まではプレロード盛土工事を実施し、本年度においては、用地買収を実施するとともに、横断^{かんきよ}函渠工事に着手します。

東櫛戸・台線整備事業については、昨年度までに路線測量など各種調査を終了したことから、本年度において用地買収を実施します。

小張バイパスおよび都市計画道路守谷小絹線の整備事業についても、引き続き用地買収を進めます。

また、青木古川整備事業第3期工事として、青木地区に残された小貝川の旧河川「古川」の護岸改修を実施するとともに、水辺環境の整備を図ります。

公共交通の整備としては、コミュニティバスについて、本年4月5日からは新しいルート・ダイヤで運行します。これによ

り守谷駅への乗り入れが可能となり、利便性がさらに向上するものと考えています。

保健・医療・福祉の充実

年々高まる高齢化や医療費の増大に対応するため、保健センターを核とした保健増進事業など各種の健康診断事業を充実させるとともに、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病の予防をすすめるため、各個人が生活習慣を改善していけるよう、きめ細かな保健指導を行います。

母子衛生についても、妊婦および胎児の健康を確保し、安心して出産を迎えることができるよう、昨年2月から14回に拡充した妊婦健康診査への公費助成を継続します。

また、妊産婦対象の医療福祉費支給制度の改正により、茨城県では昨年7月から妊娠の継続に必要な疾病に限定することになりましたが、本市では、妊産婦が対象疾病以外の疾病等になったときに患者負担分を助成し、妊産婦への負担を軽減する

平成22年第1回定例会で施政方針を述べる飯島市長

